

児島喜久雄画 中村善太郎教授像



東北大学史料館ではこのほど、従来展示できなかった大小様々の資料を展示紹介できる新しい「企画展示室」を整備いたしました。今後この部屋を使って、名品・珍品含む多様な所蔵資料をご紹介する「コレクション紹介展」を随時おこなっていく予定です。

今回ご紹介するのは、レオナルド・ダ・ヴィンチの研究者として高名で白樺派の画家でもあった児島喜久雄教授（1887-1950）の筆による、法文学部初代教授の一人、中村善太郎教授（1879-1932）の肖像画です（1932年制作）。中村教授はフランス革命の研究などで知られる歴史学者で、東北帝大法文学部の創設事務でも重要な役割を果たした教授です。当時は法文学部長をつとめていましたが、この絵が描かれた年の12月に学部長のまま53歳で急逝しました。

児島は、私費留学生として欧州留学中の1926年に東北帝国大学助教授に招かれ、帰国後1937年まで東北帝大法文学部に在任、西洋美術史講座を担当しました。当時東北帝大では、医学部の太田正雄教授（木下杢太郎）や法文学部の阿部次郎・小宮豊隆・武内義雄など書画を好む教授たちの集いが頻繁に開かれ、学生時代から太田と知り合いである児島もこの会のメンバーでした。

戦前の教授たちの肖像というと、退官や還暦等の節目に記念会などが高名な画家に制作を依頼して描かれたのがほとんどですが、この肖像は、法文学部の同僚としての個人的な交友関係の中で描いたものでしょう。中村教授の没後、肖像は長い間西洋史研究室（現ヨーロッパ史研究室）で保管されて来ましたが、1973年に当館に移管され、本学の歴史資料として大切に保存されています。

展示予定期間 2011/7/4(月)～29(金)／公開日時:月曜～金曜日 10:00～17:00